

会議録（要点筆記）

会議名	第 4 回みやま市地域公共交通活性化協議会及びみやま市地域公共交通会議
開催日時	平成 29 年 8 月 17 日（水）午後 2 時～午後 4 時
開催場所	みやま市役所 中会議室
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 報告事項<ol style="list-style-type: none">① 第 3 回会議録（要点筆記）の確認(2) 協議事項<ol style="list-style-type: none">① 市民アンケート調査について② 各種調査の追加について③ 自家用有償旅客運送について④ 地域内フィーダー系統確保維持計画（平成 30 年度）について⑤ コミュニティバス「車両デザイン」・「愛称」について⑥ コミュニティバス運行について3 その他4 次回の開催について5 閉会
委員出席者	荒巻会長、高野副会長、田中委員、徳永委員、大塚委員、芳野委員、馬場委員、平木委員、大久保委員、内山田委員、築地原委員、西委員（代理：河津委員）、吉住委員、堺委員、井上委員
欠席者	香川委員、木村委員、永田委員
事務局	企画財政課：坂田企画財政課長、山田企画財政課長補佐、鬼丸 コンサルタント会社：(株) ケー・シー・エス九州支社 吉松、金丸
傍聴者数	3 名
会議資料	<ul style="list-style-type: none">・ 第 3 回会議録（要点筆記）・ 市民アンケート調査について・ 各種調査の追加について・ 自家用有償旅客運送について・ 地域内フィーダー系統確保維持計画（平成 30 年度）について・ コミュニティバス「車両デザイン」・「愛称」について・ コミュニティバス運行について

1. 開会

＜坂田企画財政課長より開会＞

- ・委員交代を報告。 辞任：北村委員 就任：大久保委員
- ・委員欠席を報告。 香川委員、木村委員、永田委員

2. 議事（1）報告事項

①3回会議録（要点筆記）の確認

【会長】

それでは、事務局より説明をお願いします。

＜事務局より説明＞

- ・承認後、会議録は市ホームページで公表いたします。

ご質問はありますか。

＜質問なし。委員、了承＞

それでは、会議録は確定し、市ホームページで公表します。

2.（2）協議事項

①市民アンケート調査について

【会長】

それでは、事務局より説明をお願いします。

＜事務局より、説明＞

- ・承認後、8月28日発送、9月10日締切とします。

質疑を行います。

【委員】

校区により人口の差があると思いますが、無作為抽出はどのようにされますか。

【事務局】

基本的には人口規模に応じた配布数を設定する予定です。人口が少ない校区については、配布票数を少し増やして実施することを考えています。

【委員】

人口の偏りだけでなく、世代によっても偏りが出るとはと思いますが、どのように調整されますか。また、調整は技術的に可能ですか。

【事務局】

抽出結果を確認し、偏りがないように配布していきます。技術的にも可能です。

【委員】

「Q4-4」の「運行ルートを見直す（自宅や目的地からバス停が遠い）」という選択肢について、具体的なバス停の希望を記入する項目はありますか。

【事務局】

最後の設問に自由意見等を求める自由記述欄を設けています。具体的な要望等についてはそこで受けたいと考えています。

【会長】

他に質問がなければ、了承したということによろしいでしょうか。

<委員、了承>

それでは、市民アンケート調査については確定し、8月28日に発送します。

②各種調査の追加について

【会長】

事務局より説明をお願いします。

<事務局より、説明>

- ・高校1年生アンケート調査、路線バス利用者アンケート調査、駅利用者アクセス特性調査を追加します。

質疑を行います。

【委員】

「路線バス利用者アンケート」は、平日1日の実施ということですが、土日祝では動向が変わってくると思います。平日1日で把握できますか。

【事務局】

現時点では、平日1日の調査で考えています。

【委員】

「駅利用者アクセス特性調査」は、カウント調査でアクセス手段の調査は可能ですか。

【KCS】

属性とアクセス手段をカウント調査で行います。その他、調査の合間に、「アクセスについて何か困っていることはあるか」ということは聞きますが、調査結果としてではなく、こちらの内部的な資料として活用します。

【委員】

カウント調査とは、目視で利用者や駅までのアクセス手段などについて、一人一人カウントしていくということですか。それは可能ですか。

【KCS】

駅の構造としては可能だと考えます。

【委員】

「駅利用者アクセス特性調査」について、学生、通勤者を対象にしているようですが、観光目的の方もいると思います。アンケートでは観光面には触れていませんが、市の活性化のためにも、「駅利用者アクセス特性調査」で観光面に関しても調査いただきたいと思います。

【事務局】

本調査では把握できませんが、今後も様々な形で市民のご意見はいただいでいく必要があります。ご質問いただいた内容等も踏まえ、検討していきたいと考えてます。

【KCS】

補足ですが、今後、実施する生活拠点主要施設ヒアリング調査で、「道の駅みやま」などの観光施設についても対象としていく予定ですので、その中で捉えていきたいと考えています。

【委員】

今回提案されたアンケートの書式については、どのような形で諮られますか。

また、各種アンケート調査を実施されますが、調査全体の体系を示していただくと非常にわかりやすいと思います。

【事務局】

具体的な調査票の内容等については、事務局に一任いただきたいと思います。また、体系図については、次回会議でお示しします。

【委員】

「高校1年生アンケート調査」についてです。通学時間帯は「自宅を出る時間」、「学校に着く時間」という形で、家を出てから学校に着くまでの発着時間を調べる必要があるでしょうか。

また、立ち寄り先を聞く項目自体はあっても良いですが、立ち寄り先の出発時刻は不要だと思います。

「路線バス利用者アンケート調査」について、前回、「福祉バス利用者アンケート」は承認を受けたため、今回の資料には路線バス利用者ヒアリング調査の内容のみを記載しているということですか。

【KCS】

時刻に関してですが、「高校生が何時までに行かなくてはならないのかを捉え、その時間に間に合う運行ダイヤを検討する」という考え方で、学校到着時間、学校出発時間という設問にしています。しかし、自宅を出発する、到着するという内容でも問題ないと考えます。

立ち寄り先については、高校生は塾に行くなどの行動もあると思います。その時間

も考慮した帰宅時間も捉えておかないと、結局、自宅まで帰ってこられないというようなこともあるかと考え、設問を設定しています。質問が煩雑になるのであれば、この設問は削除しても、本来の目的からは外れないと考えます。

「福祉バス利用者ヒアリング調査」は、既に協議会です承いただき実施しています。今回は、「路線バス利用者アンケート調査」についてご協議をお願いしています。

【委員】

まず知りたいことは、市内在住の高校生の通学時間です。何時に出て何時に着くのかであり、家を出る時間の方が重要だと思います。最低限、出発時刻と到着時刻はおさえておく必要があります。その後、市内については、出発の時間帯によって、コミュニティバスで対応できるものがあれば、検討していくということにつながっていきます。

また、立ち寄り施設の出発時間についてです。高校生の多様な活動に对应されるコミュニティバス、路線バスはおそらくありません。みやま市の都市規模では、今の段階では、ターゲットにしない方が良く考えます。

「路線バス利用者アンケート調査」については、「福祉バス利用者ヒアリング調査」の調査項目との相違点を比較できると、なおわかりやすいと思います。

【会長】

通学時間帯について、自宅を出る時間、学校に着く時間を聞くのが良いのではないかと考えます。「自宅を出る」、「学校に着く」、「学校を出る」、「自宅に着く」という聞き方が、高校生には理解しやすいと思います。

【委員】

学校の到着時間は決まっています。自転車通学等の学生がコミュニティバスを利用することができれば、家を出る時間が遅くなる可能性があります。そのため、学校に着かなければならない時間がわかった方が良くと思います。

【事務局】

コミュニティバスの整備で通学の時間帯も変わってくるかもしれませんが、あくまで、現在の通学時間を調査するため、まずは現状について回答いただくこととなります。

【会長】

「立ち寄り行動に関する設問は不要ではないか」というご意見ですが、どうしますか。

【KCS】

通学時間帯については、「自宅を出発する時間帯」、「高校に到着する時間帯」、「高校を出発する時間帯」、「帰ってくる時間帯」を把握できると良いと思います。

立ち寄り行動については、塾や部活、友人と商業施設に立ち寄る等で帰宅が遅い学

生は時間に変動があります。そのため、公共交通の対象にならない可能性があるという意味で、立ち寄り先を聞いておく必要があると考えます。

また、立ち寄り先があるということは、帰宅時間に変動があり公共交通で賄えない可能性があるという点から、出発時間帯を聞いておいてもいいと考えます。

【委員】

高校生がコミュニティバスを利用するかは非常に疑問です。また、山門高校は、路線バスの運行ルート上にあるため、コミュニティバスが経路することは難しいと思います。アンケート調査を実施することで、山門高校までコミュニティバスが運行するとの過度な期待を与えることになるのではと懸念します。

【事務局】

本協議会は、今年度、地域公共交通網形成計画の策定を目指しています。

計画には、今後のより良い公共交通のあり方等を記載します。高校生の現状を把握し、今後のあり方の参考とするために、本アンケート調査を実施したいと考えます。また、前回会議で、中学3年生ではなく高校1年生に対するアンケート調査の実施についてご意見もいただいています。

すぐに実現できないものもあると思いますが、計画に盛り込むことで将来的により良い地域公共交通としたいと考えています。

立ち寄り行動については、設問があっても良いのではという意見もありましたので、設問に設定したいと考えます。通学時間帯については、家を出発する時間帯を追加いたします。

【KCS】

福祉バスからコミュニティバスに転換することで、福祉バス利用者に影響がでるのではないかと考えています。

そのような方を把握するために、「福祉バス利用者アンケート」では、福祉バスを利用することの必要性について設問を設定しています。その他の設問については「路線バス利用者アンケート調査」と同様の項目になっています。

「福祉バス利用者アンケート」では、福祉バスの必要性について把握し、「路線バス利用者アンケート調査」では、今後も幹線として維持していく路線という認識のもと、利用しやすいバス路線としていくため、改善要望を聞いているという点が大きく異なる部分となります。

【委員】

2つの調査内容を比較することで、設問の違いがわかりやすくなり、目的の相違点もわかります。比較表があれば良かったと思います。

【事務局】

資料の提示不足は申し訳ありません。調査実施を9月中旬予定としており、今回

提案の本内容で路線バス利用者アンケート調査を実施したいと考えています。

【会長】

他にご意見はありますか。

【委員】

本協議会の目的を再確認する必要があると思います。

各種アンケート調査の目的は、みやま市の公共交通の現状を確認し、問題点や課題を把握することです。その上で、コミュニティバス利用者のターゲットや地域公共交通のあり方について検討し、計画を策定します。

アンケート調査は、計画策定のための基礎資料であることを認識していただく必要があります。今のことだけを考えると、必要ないとか必要あるとかいう議論が出てきてしまいます。

また、学生が家を出る時間にコミュニティバス運行ができるのかについては、今後議論が出てくると思います。運行が無理であれば、やはり高齢者がターゲットとしてできます。そうなれば、高齢者の時間帯を調査する必要があります。

このような観点を認識していただき、議論を進めていただく必要があると思います。

【会長】

委員のご意見の通りだと思います。

【委員】

「高校1年生アンケート調査」についてです。市町村が形成計画を策定する際に、高校生を対象としたアンケート調査を実施することはあまり例がありません。試みとしては面白いと思います。

しかし、高校生の需要にはコミュニティバスは対応できないだろうと思います。そのため、調査はできるだけ簡潔な方が良く考えます。

立ち寄り先を聞いてもいいですが、それよりも家を出てから通学先に着くまでが重要だと考えます。何時に出て、何時に駅につき、通学先に何時に着く、という過程を聞いておくと、これからのコミュニティバス等の計画の基本的情報として役立つ可能性があります。シンプルに実態を聞くことが、今回の調査の基本だと考えます。

次に鉄道駅アクセス調査は、実施する目的がよくわかりません。これからのみやま市の公共交通網を考えると、駅までのアクセス手段を考えるデータがほしいという点はわかります。しかし、なぜ、通勤・通学者のみで、昼間のお年寄りなどの情報を対象外にしているのでしょうか。

また、アクセス手段についても、徒歩と自転車を一括りにすると、分析のときに困るのではないのでしょうか。さらに肝心の、路線バス、福祉バスの利用者について、その他の括りとなると、調査目的は何だったのかということになりかねませんか。

このような細かい点も十分に検討し、調査を実施されてください。

【委員】

調査の実施、結果の分析、その後に協議していくこととなります。結果が出る前に、今後のあり方について言うことは違うのではないかと思います。

アンケート結果を踏まえ、ダイヤ編成や始発を何時にするなどを検討し、市の交通体系を整備していくことが大切だと考えます。

また、高校生がバスを利用するのかについては、個人的には疑問です。クラブ活動等、様々な活動がある中で、マッチングするのかという気がします。

【会長】

コミュニティバスを運行するためだけに計画を策定するのではなく、様々な公共交通を活用し、市の公共交通のためにどう出来るかという計画を策定するという目的もあります。そのためには、どのようなアンケートが必要なのかという事をご理解いただき、委員のご意見を伺いながら、調査に繋げていきたいと思いますが、いかがですか。

【事務局】

会長のおっしゃる通りさせていただきたいと思います。コンサルタント会社や各委員等にご相談しながら、調査を実施いたします。調査結果について、今後、ご協議願いたいと思います。

【会長】

5年間のうちに西鉄やJRを含めたところでの計画ですから、その点も踏まえていただきたいと思います。

資料2について、他になれば次に進めます。

<委員、了承>

③自家用有償旅客運送について

【会長】

それでは、事務局より説明をお願いします。

<事務局より、説明>

【会長】

質疑を行います。

<質問なし。委員、了承>

④地域内フィーダー系統確保維持計画（平成30年度）について

【会長】

それでは、事務局より説明をお願いします。

<事務局より、説明>

【会長】

質疑を行います。

<質問なし。委員、了承>

⑤コミュニティバス「車両デザイン」・「愛称」について

【会長】

それでは、事務局より説明をお願いします。

<事務局より、説明>

【会長】

「車両デザイン」については、B案が一番多いというアンケート結果です。アンケート結果により、B案採用でいかがですか。

<委員、了承>

【会長】

それでは、B案で決定いたします。

次に「愛称」についてです。応募件数が多いものの中から決定する方が良いと思います。本会議で決定していただきたいということですので、ご意見をお願いします。

【委員】

市民から公募しているので、意見が多い「愛称」候補を尊重してはどうでしょうか。

【委員】

賛成です。

【委員】

高齢者にも呼びやすい愛称が良いと思います。「くすっぴー」だと「号」や「バス」をつける必要があります。また、高齢者は「くすっぴー」は呼びやすいのか疑問があります。

【委員】

命名者に表彰などはありますか。

【事務局】

採用された方に対する賞金等は予定していません。応募者全員の中から抽選で30名に1500円相当の商品券をお渡しします。

【会長】

他に委員の皆さんからご意見ございますか。なければ提言という事で取りまとめいたします。

応募件数が一番多い「くすっぴー」を「愛称」として、本会議より提言することによってよろしいですか。

<委員、了承>

【会長】

それでは、「愛称」は「くすっぴー」で提言いたします。「号」などについて、ご意見をお願いします。

【事務局】

「くすっぴー号」でいかがですか。

【委員】

賛成。

【会長】

それでは、市に「くすっぴー号」で提言いたします。

⑥コミュニティバス運行について

【会長】

事務局より説明をお願いします。

<事務局より、説明>

【会長】

まず利用料金について質疑を行います。

【委員】

運行を開始したら、維持していくためにはコストがかかるという点を踏まえて、議論いただきたいと思います。

割引について、「その他市長が特に認める者」とは、どのような事を想定されていますか。

【事務局】

現在、「適応指導教室さくら」へ通う生徒が、福祉バスを利用しています。今後、同様のケースも想定されるため、規定を設けました。

【委員】

具体的に定めた方が良いでしょうと思います。

【事務局】

誤解のないように表現を検討いたします。

また、福祉バスは平日運行、奇数日または偶数日の運行もしくは毎日運行です。福祉バスで、経費は年間1800万円程度です。

コミュニティバスは、日曜と年末年始を除き毎日運行でご提案しています。約3000万円程度の経費が必要だと想定しています。福祉バスは無料ですが、運行回数を増やすこと、また近隣の状況から、利用料金100円、高齢者など一部の方は利用料金50円でご提案しています。

【委員】

便数が増えることで費用がかかることは理解できます。しかし、利用者の立場からみると、あまり路線は変わっておらず、単に福祉バスの名称がコミュニティバスに変わっただけで、有料化になったという印象があります。

【事務局】

ご指摘はごもっともかと思えます。現在は無料なのに、名称が変わって有料となったという印象を持たれるかも知れません。

しかし、運行日数が2～3倍と格段に増加すること、また無料で運行している自治体は殆どないことも踏まえ料金を検討いたしました。

今度、形成計画を策定していくなかで、様々な課題がでてくると思えます。課題を整理し、今後、路線やバス停留所、運行経路の変更等も随時実施し、利用しやすいように改善していきたいと考えています。

【委員】

コミュニティバスが有料というのは、私は賛成です。ただ、現在の路線には課題があります。例えば、山川町から瀬高駅に行く人が非常に多いですが、現在の路線では、非常に利用しにくいというのがあります。そのような路線も、今回改善されていない点が気になります。

【事務局】

山川・瀬高間に時間がかかるという事は承知しています。以前の九州産交バスの運行経路と同様な路線の設定について、今後の課題として検討していきたいと考えています。

【委員】

有料化や路線の変更をどのようにするかという事については、市民がご理解いただけるような形でのアピールなどを実施していただきたい。

【事務局】

山川・瀬高間についてご意見をいただいていますので、快速用のバス路線を追加する方向で検討できないかと考えています。出来るだけスピード感を持って検討していきたいと思えます。

【委員】

清水山登山口や県営プール、タマホーム球場への停車は可能ですか。県営プールは利用者も多く、市へ様々な要望もあるため、ぜひ検討していただきたい。

また、清水山荘にも停留所を設置するべきだと思いますので、併せて検討いただきたい。

【事務局】

運行予定の路線は、オルレの出発地、西鉄江の浦駅、開駅を経由するように3か所変更しています。清水山登山口については「みやま・柳川インター東」バス停が最寄りバス停であり、県営プールについては既に福祉バスが経由しています。清水山荘については、今後の課題として引き続き協議させていただきたいと思います。

【委員】

目的地に行くための路線の乗り換えに、料金はそれぞれ発生するのでしょうか。

【事務局】

その通りです。

【委員】

65歳以上の高齢者は半額となっていますが、市外の方はどうしますか。また、障がい者の程度を教えてください。車イス利用者は乗車可能ですか。

【事務局】

65歳以上の方に市内外の区別はありません。介護保険の保険証を提示いただき半額といたします。また、障がい者については、身体・療育・精神手帳をお持ちの方が対象となります。

車イス利用者については、購入予定のバスの形状ではご乗車は難しいと思います。今後の課題としていきたいと思います。

【委員】

割引制度については賛成ですが、割引に関しては、乗務員が判断するという事ですか。

【事務局】

乗務員判断にお任せしたいと思います。

【委員】

お釣りについては、どのように想定していますか。

【事務局】

つり銭機の設置を検討しています。

【委員】

料金の収受があるため、現在の福祉バスの運行ダイヤでは厳しいと思います。料金の収受や、バス停留所の追加などがあった場合、運行ダイヤを検討する必要があります。運行本数を減らすのかなどを検討し、運行ダイヤやルートを設定したほうがいいと思います。

【事務局】

ご指摘については、今後、運行委託業者と協議していきたいと思います。

【委員】

障がい者の手帳を提示された場合、運転手は割引すると思います。しかし、頻繁にご利用され運転手とも顔なじみになった方が、手帳がなくても割引してくれていたが、違う運転手だと割引してくれないというトラブルが発生する可能性もあります。

【事務局】

今後、障がい者の方の割引方法はよく検討させていただき、トラブルが生じないようにしたいと思います。

【会長】

利用料金は本会議で決定する必要がありますか。

【事務局】

本会議で決定していただく必要があります。

【委員】

資料6の取扱いがわかりません。本資料は運輸局に届け出る内容についての協議ですか。それとも、フィーダー系統補助の申請のためにとりあえず決定し、今後見直しが入るものなのですか。

【事務局】

後程、ご提案する予定でしたが、第5回会議を11月開催予定としていましたが、10月に第5回会議を開催したいと考えております。

利用料金、路線、バス停留所については、次回会議で決定し、事業手続きに進みたいと考えています。

【会長】

バス停とはどのような内容ですか。

【事務局】

フィーダー系統補助でご説明した系統と、本資料でご提案している系統は若干の違いがあります。現在の福祉バス路線でフィーダー系統補助に関する書類は提出いたします。

資料6では、追加検討している3つのバス停留所について追加しご提案しています。10月に予定している次回会議で決定いただきたいと思います。

【委員】

アンケート結果が、利用料金や財政負担に影響することはありますか。

【事務局】

アンケートは計画策定のために実施するものです。アンケート内容で、料金に関する質問はしていません。公共交通に関する市の財政負担について設問がありますので、今後、結果は活用したいと考えています。

【会長】

アンケート結果は、次回会議で報告できますか。

【事務局】

はい。

【会長】

次回会議で、利用料金、バス停留所、運行経路について決定します。決定内容を受け、国に申請することとなります。今回提案の資料について、他にご意見はありますか。

【委員】

市の財政負担もあり、また、国の運行補助も上限額があります。利用料金100円の場合について、収支に関する資料をいただきたい。

【事務局】

シミュレーションを作成し、次回会議でご提示いたします。

【会長】

それでは、本日の協議事項は全て終了いたしました。

3. その他

【会長】

委員や事務局から何かありますか。

【事務局】

事務局からはありません。

4. 次回の開催について

【会長】

それでは、次回第5回会議は10月24日14時開催とします。

<委員、了承>

5. 閉会

【会長】

以上で、第4回みやま市地域公共交通活性化協議会およびみやま市地域公共交通会議を閉会します。

(午後4時閉会)